

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	株式会社総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり (1階)		
所在地	岐阜県多治見市市之倉町13丁目83番地353		
自己評価作成日	平成24年1月21日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2191100052-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>隣のひまわり幼稚園との触れ合いで元気をもらい毎日の生活にはりを持って頂く。外出の機会を持ち季節を肌で感じ、充実した日々を過ごして頂く。季節感のある家庭的な献立で満足していただいている。季節毎の行事や紅葉狩り、花見で外出の機会を作り季節感を味わって頂けるように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、幼老一体の総合福祉事業を運営する法人の一部門である。利用者は、同じ敷地内にある幼稚園の園児と日々ふれ合い、笑顔と元気をもらい、充実した毎日を過ごしている。そして、最期まで、住み慣れた環境の中で安心して暮らすことができるように、医療・看護の支援体制を整えている。地域住民とは、第3日曜日に喫茶を開き、親密に交流している。職員は、自己研鑽に努め、今年度の介護福祉士や認知症ケア専門士の試験に多数合格している。総合福祉拠点の機能を活かしながら、利用者が張り合いを持ち、満足できる生活を支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有できるように努力している	理念は「利用者の尊厳を守り笑顔あふれる生活」を各所に明示し、ミーティングで共有している。利用者の基本的な権利を守り、その人らしい暮らしができるように実践している。地域密着型の新しい理念に作り変えることを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には回数は多くないが参加している。 散歩や買い物などにも出かけている。	自治会員として、防災訓練や祭りに参加している。第3日曜日に喫茶店を開き、また、記念日には無料で住民を招待し、活発な交流の場になっている。地元小学校の運動会へでかけたり、生徒が介護体験に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	第三日曜日に日曜喫茶を開催している。20回の記念の日曜喫茶も開いている。その中で認知症の理解の話もしながら楽しく開催。参加すると皆さんに出会うこともできて又元氣をもらって1か月頑張れると言われている地域の方も多い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や人員状況、事故報告などを報告し、要望などを聞いている。頂いたご意見をサービス向上に生かす努力をしている。地域での問題について議題にあがることもあり問題解決につながることもある。	隔月に会議を開き、行政、民生委員や家族が参加している。事故対応や地域の独居者の課題、ボランティアの確保で意見を交わしている。また、成年後見制度や地域生活支援制度を学び、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、常に困った時は積極的に相談して協力関係を築く様に取り組んでいる。	運営推進会議に出席した担当者に、実情を報告している。圏域外入居者の手続きや困難事例を相談している。市主催の事業者会議やケアマネージャー会議で、意見や情報を交換し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間職員が一人になる時以外は、施錠は基本的にはしていない。マニュアルも作成しており理解を深める努力をしている。	身体拘束は、禁止を基本にケアを行っている。拘束や虐待しないように、自由な行動を見守っている。夜間以外は、玄関の鍵はかけていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、職員同士で話し合い、意識して利用者と接している。注意深く観察し「内出血事故報告書」に記入し原因を職員で考えたりして事故、虐待に対する意識を高めている。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し活用に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し、おこりうるリスク、重度化についての対応などについて詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見は運営推進会議でお話頂いたり、皆様の声、苦情箱を設置しています。又、面会に来られた時最近の様子をお話しご家族の意見、思いを聞き運営に活かすようにしている。	家族の面会時や運営推進会議の機会に、意見・要望を聞いている。通院介助が契約書に明示していないとの意見があり、改善している。本人・家族の意見等は、速やかに対応できる仕組みができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞くようにしている。その内容を施設会議で話し合い、反映できるようにしている。	管理者は、朝礼時やミーティングで意見や提案を聞いている。転倒予防センサー設置や症状の細かい観察のあり方の提案があり実現している。会議を定例化し、会議の内容を充実するように検討している。	会議を定例化し、学習や研修、よりよいケアの周知・徹底、サービス評価やケアプランの検証など、多様な話し合いの場になるように期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場の中で個々の勤務状況を把握している。現在給料には反映されていないが体制づくりを進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の情報を提供したり、研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	副事務長が他施設の見学訪問を実施しており、交流を深め施設の質の向上に努めているが。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自分から言える人が少ない為、普段の関わりの中からくみ取る様にしている。又入居時、契約時に要望等を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の懇談で、家族の思いを聞き、面会時や電話などで常に連絡しあい良い関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の懇談で、支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食器を洗ったり、自分で出来る事はして頂き、お互い協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加をお願いしたり、外出や外食をして頂くこともある。常にご家族と連携を取りご家族の立場を理解し良い関係を築いている。月1でひまわり便りを郵送し情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪ねてこられることがある。こちらから出向くことはあまりない。ご家族に外出をお願いすることもある。	知人、友人の訪問は、一部の人のみが継続している。懐かしい場所や買い物へは、事業所の車で出かけ、帰宅や墓参りは、家族に協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを企画したり、利用者同士が会話できる機会を作る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の関わりが少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から声かけし把握に努め、本人本位のケアができるように努めている。	日常の会話の中で、思いを把握している。困難な人は、選択肢を分かりやすくし、表情の反応から汲み取っている。一人ひとりの自己決定を尊重し、思いに沿った暮らしを支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話や行動の中から生活歴などについて情報を見つけるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の思いを聞き、職員会議で意見を交換し介護計画を作成している。	職員の意見や、本人・家族、専門職の意見を介護計画に反映している。定期的にモニタリングを行い、課題があれば、柔軟に見直している。常に、よりよいケアのあり方を、関係者で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき等は介護記録に記録している。また申し送りノートに細かく記入し、朝礼などで繰り返し話し合い、意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院など必要に応じて支援している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供やマジック、ダンスなどボランティアの協力で楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院へ受診している。基本的には家族対応の受診となっているが都合の悪い時は職員が付き添い受診している。受診の度に看護師が「受診確認表」を作成し、かかりつけ医に情報を提供出来る様にしている。	これまでの、かかりつけ医と、他の医院に変更した人もあり、柔軟に選択している。協力医や、それぞれのかかりつけ医が、月2回往診に来ている。通院は、家族ができない場合は、職員が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と常に連携して対応している。急変時も24時間体制で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は様子を見に行き、状態を把握し、家族とも連携し退院ごとに安心して暮らせるようにしている。また、病院とも情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明してありますが、終末期のケアについてはご家族の思いに添える24時間体制の医療連携を整えたいと準備中です。	重度化、終末期の方針を定めている。できるだけ、本人・家族の希望に応じるように、医療と介護の連携を整えている。看取りの事例があり、終末支援の精神的、医療的な職員教育に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実施している。今後も定期的に訓練、研修を行う予定です。事務所にマニュアルが提示してあり職員がいつでも目が通せるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防署の協力で訓練を行っている。	消防署と住民参加の避難訓練を実施している。地域関係者とは、緊急連絡網を整備している。災害対策マニュアルを基に、危機意識を持続できるように学び、備蓄品も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを損ねない対応を心がけている。職員会議の折に職員の意識向上を図っている。人格を汚す対応をした職員には、現場で管理者、リーダーが注意をするようにしている。	一人ひとりの個性を尊重し、誇りを損ねないように対応している。間違いや、こだわりを否定せず、相手の言葉を受け止め、やさしい口調で語りかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択できるような対応を心がけているが、まだ十分ではなく職員の研修が必要である。言葉で意思を表せない利用者様には表情で察するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが作ってありそれに沿って対応しているが、自分のペースで過ごされる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は利用者を選んでもらっているが、本人が選べる人は少ない。また2カ月に1度理美容を利用できるよう連携を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は出来ないが食事の後片付けを手伝っていただける利用者様がある。又好きな食事を聞き提供することもある。	利用者の好きなもの、苦手なものを聞いて、献立づくりをしている。職員は、食事を楽しく、食欲がわくように、話題づくりをしている。利用者は、身体能力に応じ、食後の片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事摂取量を把握している。利用者の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの手伝いを行っている。入れ歯の方は、自分で洗われた後、職員がみて清潔保持している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し一人ひとりの排泄習慣、リズムをつかみ、オムツ使用を減らし、排せつの自立に向けた支援をしている。	一人ひとりの排泄リズムやサインをつかみ、トイレでの排泄を促し、自立を高めている。個々の量や頻度に応じて、尿パッドやオムツを選択して削減に努め、気持ちのよい排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操をしたり、散歩に出かけたり、水分補給を十分する様に取り組んでいます。下剤を使用している方には個々に応じた使用量、頻度で使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に希望に合わせて入浴できていないが、出来るだけ希望に添えるように努めて行く。	隔日に入浴できるように設定している。その日の状態によって、足浴や清拭に代えたり、重度者は、併設の機械浴を利用している。季節の菖蒲湯や柚子湯で、ゆったりと心地よい気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体の状態に合わせ、休息していただいている。本人が個々の体調に合わせて休息されている方もいる。職員からその日の利用者様の様態をみて就寝して頂くようにも務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は記録と一緒に職員がすぐ確認できるようにしている。看護師とも連携し支援している。服薬管理表を作成し誤薬事故が起きないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や手芸など自らの好みの物を購入し楽しんで暮らされている。職員は利用者のおおよその生活歴を把握しているのでコーヒータイムなどに好みの飲み物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて散歩に出かけたり、買い物に出かけたりしている。また家族の協力も得て外出の機会を設けて頂いている。家族の協力の有無で支援に差が出ている。	敷地内を歩いたり、近くの公園を散歩している。地域の祭りに出かけたり、住宅街のイルミネーションを見に外出している。季節の花見や紅葉狩りなどへも、出かけられるように支援している。さらに外出の機会を増やすように検討している。	さらに、散歩を増やしたり、戸外の行きたいところへ出かける支援を、家族の協力と理解を得ながら、外出できるように期待したい。

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名の方が自己にて所持し、買い物などで使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙を出せる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間兼食堂は1フロアからなり居間にはソファも置いてあり、畳コーナーもある。壁には利用者と共同で作成した作品が貼ってあり、季節感のあるフロアとなっている。	色彩があり、調和の取れたカーテンや壁飾りで、落ち着いた環境づくりをしている。四季の花や、節分、ひな祭りの作品を飾り、季節感を採り入れている。居間のソファで、ゆったりくつろげる空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスを配置し、外を見ながら会話できるスペースを作り、居間にソファをおき、ゆっくり過ごすスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具が置いてあり自宅にいる様な感覚に慣れるように配慮している。	これまで使っていた筆筒、椅子やテーブル、テレビなどを配置し、自宅のような部屋づくりをしている。趣味の作品づくりに使う小道具と作品、好きな俳優のポスターを飾り、安心して居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせた環境整備に努めている。危険が生じた場合は、本人の不安材料を取り除けるよう職員や利用者と話し合っている。		